令和２年度　北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議
第１回　介護保険に関する会議　会議録

１　開催日時

令和２年７月３日（金）１８：３０～２０：００

２　開催場所

総合保健福祉センター（アシスト２１）２階　講堂

３　出席者

（１）構成員（順不同）

井上構成員、黒木構成員、権頭構成員、下河邊構成員
中野構成員、野村構成員、橋元構成員、前川構成員
丸林構成員、渡邊構成員

（２）事務局

地域福祉部長、介護保険課長、介護サービス担当課長、
長寿社会対策課長、地域福祉推進課長　他

４　会議内容

○　(仮称)次期「北九州市いきいき長寿プラン」の策定について
○　北九州市の介護保険の実施状況
○　第８期介護保険事業計画の策定に向けて

５　会議録（要約）

（１）（仮称）次期「北九州市いきいき長寿プラン」の策定について・・・・・・・資料２

事務局：(仮称)次期「北九州市いきいき長寿プラン」の策定について、資料に沿って説明

代表

本会議は４回の開催予定であるが、４回目はもう計画が完成しておかなければならない。本当に議論できるのは第２回であり、３回目は骨格が完全に出来上がっている状態となっている必要がある。非常にハードなスケジュール。限られた時間と、限られた期間、介護保険という限られた議題の中で、議論いただきたい。

構成員

４回目は完成ということで、本当に議論できるのは２回目か３回目であるが、大事な計画を本当に４回でできるのか、前回もこのスケジュールだったのか教えていただきたい。

長寿社会対策課長

２回目が議論の中心になってくると思われるし、３回目は骨子が出来上がっているなど、前回と同様の４回のスケジュールで計画策定を予定している。

代表

この介護部会では介護サービスの充実、安心して生活できる環境づくり地域づくりに対する議論が主体になっている。または他の認知症部会などから意見が出て、それを次回開催までの期間に、各部会の代表委員が集まり調整会議を開催する。その意見の集約されたものを、次回の介護部会で議論していただく。議論は２回程度だがその間に調整が入ってくるので、もっと多くの情報を構成員にはお伝えできると考えている。

長寿社会対策課長

書面等でも意見を承り、各会議で調整を行いたい。

代表

市民からのパブリックコメントにおいて、意見や提案を受けたものについても会議の中で議論していくことも重要である。

四助は厚生労働省が言い出してすでに８年経つが、それぞれの要素が何なのかということが十分に理解されていないということもあるのではないか。

構成員

地域包括ケアシステムについては、現場では在宅医療と、他職種、地域の互助組織など一緒になって会議を開いたりしている。専門職だけでは関わっている時間が短く、通常は地域住民が見守りや支えをしているので、そういう方々と我々専門職が話し合わなければならないということで昨年から少しずつ始めている。医師会の方も在宅医療をみんなで一緒になって取り組んでいこうと考えている。

構成員

コロナの影響で老健施設もほとんど動きがない。在宅を支えるデイケアなども動いておらず、役割を果たせていなかった。最近は改善しているが、こういう状況を考慮に入れたようなシステムを考えていかなければいけない。

構成員

地域との連携が非常に重要ということで、取り組みを行っているが、地域包括ケアシステムは地域の方にはしっかり浸透・周知していない。これを地域の方にしっかり説明しながらやっていこうとしていた矢先、コロナが発生し集まることができなくなった。

構成員

在宅介護、施設での介護については、地域の方にどれだけ相談することができるか、こういうシステムがあることなどについて身近に相談できる人がいるということが安心して生活できることにつながる。自分の現状を地域の人に話せるようになると良いが、地域の人との垣根があり、これがある間はなかなか助けを得ることができない。地域の人たちの偏見を取り除いた活動、家族や本人が相談しやすい環境、偏見がないような社会を進めていくべきであり、これには啓発活動が大事。地域地域で活動できる人がもっといると思うが、思いがあってもなかなか出来ない人もいて、このような人たちを活動に結びつける必要もある。

構成員

介護保険制度が重度の方にシフトしていっており、要支援やリハビリの方の生活支援のサービスが軽視されている。これらの方の生活を支援していかないと在宅自体が成り立たなくなる。

代表

高齢者が年金生活だけでなく、地域で何かの収入、雇用を得るということは非常に重要な要素と考える。

構成員

公助に関する情報はたくさんあるが実は見ていない方が多い。自助には限度がある。互助には小さな活動の中にもある程度はある。家庭の事情をフランクに話せないため地域というのは非常に難しい。代表が示す地域包括支援ケアシステムの方向性は十分であり賛同するが、本来は地域の方にどうやって伝えていくか、受け止めてもらう手段方法を考えないといけない。特に男性に対して伝えていく必要がある。

代表

地域住民にきちんと伝わっていない、自治会活動への加入者の低下、個人情報保護法によっていろいろなことを聞けなくなっている等の問題もある。しかし相対的に見ると、昔の高齢者に比べれば今の高齢者は元気な方が多い。

構成員

介護予防などは行わなくてもよいという意見もある。介護予防をいかにフランクに使いやすいものにしていくか、これから非常に大事な項目ではないかと考える。

（２）北九州市の介護保険の実施状況・・・・・・・資料３

事務局：北九州市の介護保険の実施状況について資料に沿って説明

代表

北九州市の高齢化率は３０％を超えているが、認定率は２３％程度。さらにサービスを受けていない人も７０％弱という状況。自助・共助で頑張っている高齢者も少なくないことがわかる。高齢者のうち自宅で生活している方が６割であり、介護施設に入所している方は１９．４％となっているが実際は、サ高住に住んでいる方が多いのだが、この実数がなかなかつかめない。高齢者の施設を作ってほしいというのが住民の希望ではあるが、数年後には余ってしまうというのが現実の課題。北九州市は全国に比べて要介護１・２の方が多く、重度の人は少ない傾向にある。後期高齢者の方が圧倒的に増えているが、後期高齢者がデイサービスを受けている人は約３分の２いる。この問題に対してどう取り組んでいくかが大きな課題である。

構成員

団塊の世代が７５歳に達することにより、様々なリスクを抱えており、要介護状態に陥りやすいと言われているが、それによりサービス参入する事業者も多くなってくるということもある。これを考えた時に、サービス事業がこれに追いついていけるのか、大変危惧するところである。介護人材の確保のところで、研修の目標値に全然追いついていない、これは介護の人材の育成というところで大きな問題を抱えているということ、これは北九州だけの問題ではない。今後サービスのニーズが高くなるという中で、事業の整理をどういうふうにやって行くのかということを、しっかり押さえておかなければならない。

一方で、住民の健康寿命を延ばしていくという取り組みをどういうふうにやっていくのか、介護予防について色んな課題があると考えている。今年度初めに計画を立てた事業所は、コロナウイルスでかなり予定が狂っているというのが実情である。

地域包括ケアシステムで互助機能というのがあったが、介護をするボランティアの方もこのコロナの影響で、かなり家に閉じこもっている状態である。北九州はこの互助機能で支えられているという部分が大変大きかったが、コロナの影響で機能崩壊した面がある。これがどのような状態になっているのが実態を把握する必要があると考えている。

デイケアやデイサービスについては現在キャンセル率が２０％程度になっている。その理由は本人が怖い、家族が行かせたくないなど様々な理由がある。これによって高齢者が家に閉じこもっており、ケアマネもなかなか自宅に行けないということもあるので、お互いにその機能が止まっているということもある。よってまず事態を緊急的に把握する必要があると考えている。

代表

コロナウイルスによってサービスそのものが疎になってしまっているということは、対象者の機能そのものが低下している、生活機能も落ちているということである。専門職やボランティアも何をすれば良いのか戸惑っているのが現状である。北九州はリハビリテーション発祥の地でありマンパワーも多いし特養の施設も多い。

構成員

次期介護事業計画で特養を作るかどうかという議論もあると思うが、高齢者が減っていく中で作っても入る人がいない状況になる。待機者が一桁台というところもあると思うので、この辺をどう調整していくのかという部分もある。

子供の減少は介護の現場の人材不足ということにもつながってくる。学校教育の中でも介護の現状をしっかり発信して行かなくてはいけない。次世代の育成のためにもしっかり連携して協議していくべきだと考える。

構成員

老健施設も常に人材不足に悩んでいる。外国人雇用の話も出てくるが、なかなか言葉の問題、生活の問題などもありその辺から考えていかないといけない。即戦力にならないため大変困っている。介護保険を進めるためにはその基礎となる人材抜きには語れない。安心して供給していくためのシステムをどのように構築していくのかということは大変悩ましい。

代表

老健施設も空床があるという施設が増えていると聞いている。

構成員

介護医療院については、市内にまだ数箇所という状況である。

代表

病床数がどうだということよりも、それに携わる人材をどう育てるかというのが大きな課題になっている。それによってサービスの向上というのが図られる。この点についてもまとめていかなければならないということになる。

（３）第８期介護保険事業計画の策定に向けて・・・・・・・資料４

事務局：第８期介護保険事業計画の策定について、資料に沿って説明

構成員

今、国の政治を支えている３０代から５０までの間の人たちに、制度の内容がしっかりと伝わっていくようなものにしてほしい。離職者の数を考えれば、介護職の処遇改善はもっと行って良いと考える。

代表

今の若い人たちに、何か夢を持たせる、期待を持たせられるような北九州の介護保険制度が構築できないか。かつ、介護職の人たちにもう少し優遇処置を考えられないかという意見であった。

予定時刻となったので、本日はこれで会議を閉会とする。